



## 歯学部創設30周年



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武  
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000  
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

### 昭和大学歯学部は創設30周年を迎えました。

の障害を受けるのか、また、補綴介入によりどの程度の治療効果が期待できるのかを定量化し、欠損歯列患者に対する補綴介入に関する臨床判断の基盤となる科学的根拠を示すことは、早急に取り組むべき課題です。これらの課題について、インプラント科や顎関節症科、さらには基礎系の講座の先生方のご協力を仰ぎながら取り組んでいきたいと考えております。

教育については、患者の社会・医学的背景に対応して適切な臨床判断ができ、しかも高い臨床技術を提供できる歯科医師を育成するために、講義・基礎実習・臨床実習のありかたを見直して行こうと考えております。参加型の臨床実習を行うことは必須であり、そのためには、従来の技工主体型の基礎実習を見直し、両者を合理的に連携させて、さらには義務化された研修医制度も視野に入れた歯科補綴学教育に取り組んで行くつもりです。歯科補綴学教育を通して歯科医学の重要性を伝え、自ら学び考える能力をもった歯科医師を育てるために微力ながら尽力したいと思っています。自分も含めて医局員とともに自分の限界を安易に設定せず、高い目標に向かって臨床、研究、教育に邁進して行くつもりです。皆様のさらなる御指導、御鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 新任教授挨拶

歯科補綴学教室 馬場 一美

この度、10月1日をもちまして本歯学部歯科補綴学教室を担当させて頂くことになりました。我が国の総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は20%を超え、すでに超高齢社会に突入しているといえます。今後、高齢化はますます加速していくことが予測されており、結果として歯の欠損に対する治療、つまり補綴歯科治療の需要も増大すると考えられています。また、長くなった人生を健やかに暮らし、充実した人生を送ろうという意識が高まり、国民の Quality of Life (QoL) 向上のために補綴歯科治療の担う役割はますます大きくなりつつあります。



このように申し上げますと補綴の未来は明るいように見えますが、一方では患者のニーズは多様化・高度化しており、今後、従来型の補綴治療がこれらに対応できるかといえはなはだ疑問です。歯の欠損に起因して損なわれた形態・機能を回復することは言うまでもなく、生命を営むために必須である上部消化器官の一翼を担う顎口腔の健康増進を基本として、QoL向上のために患者立脚型の医療を展開して行くことが求められます。

補綴治療の基本的な臨床手技はすでに完成された感はありますが、昭和大学歯科病院補綴専門外来は基盤となるこうした治療技術を一般臨床医とは一線を画する高いレベルで提供する責務があります。また、患者ニーズに対応して新たな技術が日々開発されておりますが、これらについても積極的に取り入れ常に最先端の医療を提供できる環境を整備し、さらに、昭和大学発の新たな知見を発信する必要があります。メタルレス・レストレーション、再生医療、CAD/CAMなどの最新のテクノロジーの臨床応用・臨床普及は言うに及ばず、欠損補綴の中で重要な役割を担うようになったインプラント治療についても、歯科補綴学で培われた技術を基盤として更に多くの患者がその恩恵を享受できる新たな枠組みを構築したいと思っております。また、補綴治療の予後を左右するリスクファクターを生化学的検査によって予測し、それに対応した治療法を選択する、いわゆるテーラーメイド治療が可能になれば補綴治療の予知性を飛躍的に向上できると考えます。歯の欠損によって患者がどの程度

## 上條賞(研究業績・研究補助)受賞者決まる

広報委員長 五十嵐 武



山田教授



高見講師

平成19年度上條奨学賞受賞者が決まりました。この賞は、有益な学術研究業績、教育実践上の功績ならびに学術研究に対する補助に該当する者が受賞対象となります。

研究業績は、歯学部教授会内の選考委員会を経て、山田庄司教授(歯科薬理学)が「骨再生機能を持つ歯周疾患治療薬の開発に向けた基礎的研究」で受賞されました。また、学術研究補助は、歯学部研究活動委員会での学部内公募を対象に選考され、高見正道講師(口腔生化学)が「破骨細胞分化調節機構の解明」で受賞されました。

授与式は12月19日(水)の歯学部教授総会で行われ、受賞内容は歯学部だより12月号に掲載する予定です。

## 入試結果(推薦・編入)報告

口腔生理学教室 井上 富雄

11月11日(日)に平成20年度の歯学部推薦・編入学試験が旗の台キャンパスで行われました。当日は、晴れで例年より暖かい天候に恵まれました。推薦の志願者数は全体で47名で昨年よりも42名減少しました。全国的にも歯学部の志願者は減っているようですが、本学では出願条件の高校成績の評定平均を3.0以上から3.5以上に引き上げたことも影響したと考えられます。編入学試験は若干名の募集に対してほぼ昨年並の20名の志願者がありました。合格発表は11月13日に行われ、推薦入試は23名(男子6名、女子17名)が合格し、編入学試験では5名(男子2名、女子3名)が合格しました。今年度は薬学部と同日に推薦入試が実施されましたが、特にトラブルもなく無事終了いたしました。これから選抜Ⅰ期、Ⅱ期等の試験が始まりますが、Ⅰ期は保健医療学部と同日実施、Ⅱ期は薬学部、保健医療学部と同日実施となり、例年と若干異なっております。職員の皆様には今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	23名	H19.10.29 ～11.6	H19.11.11 (日)	H19.11.13 (火)
編入	若干名	H19.10.29 ～11.6	H19.11.11 (日)	H19.11.13 (火)
センター	10名	H.1.4 ～ 1.23	H20. 1.19 (土), 20 (日), H20. 1.27 (日)	H20.2.7 (木)
選抜Ⅰ期	55名	H19.12.25 ～ H20.1.23	H20. 1.27 (日)	H20.1.30 (水)
選抜Ⅱ期	8名	H20.2.25～ 3.10	H20. 3.15 (日)	H20.3.19 (水)

## 父兄会 秋季部会

教育委員長 佐藤 裕二

11月17日(土曜日)午後1時から恒例の父兄会秋季部会が旗の台校舎で開催されました。

歯学部はここ数年参加者が増えていますが、今年も200名弱の参加者があり、歯学部会会場の4号館600号室はほぼいっぱいになりました。最初に宮崎学部長が歯学部の現状とこれからについてお話しし、引き続き私が今年度後半の学業予定(特に進級判定、共用試験、卒業判定)について説明し、立川学生部

長が全歯体を始めとする学生の課外活動の報告と健康管理や生活態度に関する諸注意を行いました。



部会終了後、各部屋にわかれて指導担任との個人面談を行いました。指導担任も従来のように教授中心ではなく、本年度からは40名強の教員が少人数の学生について細かく対応するようになりました。そのため多くの教室に分散し、多少混乱もありご迷惑をおかけしましたが、ご父兄も熱心に個人面談をされていまして、個人面談終了後も進級判定、研修医制度などについて熱心な相談を受けました。

夕方に50周年記念館で開催された懇親会にも大勢のご父兄が参加され、教員を含めて懇親を深めました。

土曜日の午後にもかかわらず、遠方からもおいでいただいたご父兄各位、熱心に学生指導にあたっている指導担任各位、裏方で支えた教務や学生部の職員各位にお礼申し上げます。学生、ご父兄、大学、教員、職員の今後の良い連携が期待できます。

## 新任教授歓迎会

小児成育歯科学教室 井上 美津子

平成19年9月11日付で歯学部教授に就任された馬場一美先生(歯科補綴学講座)と高橋浩二先生(口腔リハビリテーション科)を迎えて、教授会の歓迎会が10月17日午後7時から開催されました。ぐるなび情報では、“ヨーロッパをイメージさせる優美な空間で楽しむイタリアン”という自由が丘の「カフェ ラ・ボエム」で、教授会のメンバーにはちょっとおしゃれすぎる(?)イタリア料理を楽しみながら、御二人の教授会への仲間入りをお祝いしました。馬場教授は、東京医科歯科大学から10月1日に昭和大学に赴任され、すでに積極的に活動を始められています。高橋教授は、科長という立場は同じでも、教授に就任されて御活躍の場を広げておられます。料理とともにビールとワインがみるみる消費されていくなか、なごやかに盛り上がりながら歓迎会はお開きになりました。

御二人の先生方の今後の御活躍を心よりお祈り申し上げます。

## 永年勤続者 表彰式

歯学部長 宮崎 隆

去る11月13日(火)に上條講堂において、学校法人昭和大学の平成19年度永年勤続者表彰式が執り行われました。グリークラブの校歌斉唱に引き続き、小口理事長が大学の発展を支えてくれた永年勤続者に対して感謝を述べ、自分を愛すると同じように隣人を愛せよという言葉があるが昭和大学を職員が愛する価値のある職場にしたいと挨拶されました。引き続き理事長から対象者一人一人に、表彰状と記念品が授与されました。表彰式に続き、タワーレストラン昭和で懇親会が開催され、思い出話に楽しいひとときを過ごしました。

歯学部関係の25年ならびに15年の表彰者は以下の通りです(敬称略)。今後も益々お元気でご活躍されますようお願い申し上げます。



25年: 山田庄司(歯科薬理学), 東光照夫(齶蝕・歯内治療学), 境野利江(歯科放射線), 古矢信治(教務課), 中澤 緑(歯周病学), 白井恵美子(歯科病院薬局), 高田けい子(歯科病院管理課), 鈴木春美(歯科病院管理課)

15年: 堀田康弘(歯科理工学), 関 健次(歯科放射線学), 西野智美(歯科放射線学), 齋藤由美(歯科病院医事課), 依田秀子(歯科病院看護部), 布川桂子(歯科病院看護部), 望月裕乃(歯科病院中央検査室), 藤野美紀(歯科病院歯科衛生士) 千葉克美(歯科病院中央放射線室)

## 第8回歯科医学教育者ワークショップに参加して

歯周病学教室 臼井 通彦

平成19年9月28, 29日に日本歯科医学教育学会主催の第8回歯科医学教育者ワークショップに参加致しました。本ワークショップは東京都多摩市の多摩永山情報教育センターにて開催され、全国29歯学部のうち私も含め18歯学部から参加がありました。

このワークショップでは『歯科医学教育者としての指導能力を教育現場に反映できる技法を習得する』という歯学部教員としては非常に重大かつ有益なミッシ

ョンを背負い2日間を過ごしました。具体的には、カリキュラムの構築方法、教育目標・教育方略の設定、さらに教育評価の仕方等に関するそれぞれの課題に対して1グループ6人体制で取り組み、討論・協議しながら答えを導き出していくというものでした。ほとんどの参加者が教授・准教授で教育年数も長きにわたる先生達ばかりでしたので、足を引っ張らないよう緊張することが多かったのですが、他の先生方の経験に基づいた教育に対する考え方なども吸収することができ、私にとっては大変実りのあるワークショップとなりました。

教育職に就き半年が経ちましたが、今回のワークショップで学んだ事に加え、今一度、「国民の健康に親身になって尽せる臨床医家を養成する」という昭和大学建学の理念に立ち返り、日々の教育に励んでいこうと考えております。

## チュービンゲン大学に留学して

歯科補綴学教室 樋口 大輔

私は平成18年8月より平成19年8月までの約一年間、ドイツの南西部にあるチュービンゲン大学に留学してきました。チュービンゲン大学は1477年に設立された大学で学生数約26000人、17の学部がある大学です。街中に学部が散在しており、チュービンゲンの人口約8万人の中で学生や大学関係者が約3万人を占めています。チュービンゲン市そのものが大学と言ってもよいでしょう。

私は歯科病院の補綴科およびインプラント科のWeber教授に師事し、インプラント治療の他、補綴治療全般を教授より直接指導を受け、治療を行ってまいりました。ドイツでの治療は非常にシステマティックに行われています。日本でも認可されたジルコニアですが、ドイツではすでに多くの症例が行われており、ブリッジなど多岐にわたり経験することができました。ドイツで治療を行うためには、日本から書類を持参し、現地にて審査を受ければ可能です。これからも多くの歯科医師がアメリカを始め、ヨーロッパなどへ留学していくと思いますが、研究だけでなく実際の臨床にも触れる機会があれば、さらに充実したものになると私は考えています。



最後に、今回の留学の機会を頂いた川和前病院長、宮崎学部長に感謝するとともに、私が不在の間、ご支援頂いた方々に御礼申し上げます。

## 米国骨代謝学会に参加して

口腔生化学教室 高見 正道

9月16日から5日間、米国ホノルル(ハワイ州)のコンベンションセンターにて開催された第29回米国骨代謝学会(American Society of Bone and Mineral Research)学術集会に教員および大学院生らとともに参加いたしました。

本学会には、日本や韓国、ヨーロッパ諸国、オーストラリア、そして米国など、世界中から非常に多くの骨代謝研究者が参加しました。今回はポスター発表、口頭発表、シンポジウムなど、約2000の演題発表があり、昭和大学歯学部からは、ジンジパインとLPSによる破骨細胞形成誘導(安原理佳ら)、POEM 遺伝子の発現制御(宮園あがさら)、歯の発生における炭酸脱水酵素の役割(王九虎谷ら)、破骨細胞分化におけるIRF-8の役割(趙宝紅ら: Young Investigator Award 受賞)についての発表がありました。

今回の参加によって自分の専門分野である破骨細胞分化を新しい視点から見つめ直すことができました。今後も質の高い研究を心がけながら来年の学会に向けて努力していきたいと思っております。

写真の説明: 学会主催のSocial Eventにて(前列左と後列左はロックフェラー大学の研究員、前列中央の二人はAmgen社の研究員、後列中央は本学の安原理佳助教、後列右は本学の趙宝紅さん、前列右は本学の王九虎谷さん)



## 第16回欧州インプラント学会に参加して

大学院4年 片岡 有(歯科理工学専攻)

10月25~27日にスペインのバルセロナで開催されたThe 16<sup>th</sup> EAO Congress (European Association for Osseointegration)に宮崎隆教授とテュービンゲン大学に留学中の歯科補綴学教室の石浦雄一先生と参加しました。ポスターだけでも400題近く近く発表があり、私もその一角で"Cellular Response of Microfabricated Titanium Obtained by Wire-type EDM"という演題で発表しました。

昨年もこの学会に参加しましたが、基礎研究だけではなく臨床研究に関する研究も大変盛んです。特に、臨床報告を基にし



たコンセンサスレポートには数多くの聴衆が集まり、日々の臨床の為に耳を傾けていました。会場はまさに芋を洗うような混雑で、ヨーロッパでのインプラントへの関心の高さの現われだと思いました。

また、バルセロナは芸術と歴史の深い町で、建築家アントニ・ガウディによる建築物が町中にあり、道を歩いているだけでも世界遺産などに触れることが出来るすばらしい町で、美術館も大変手ごろな入館料で楽しめます。今回の学会では、充実した4日間を過ごすことができ、今後の臨床や研究に大いに刺激となりました。

## 歯学部同窓会からのお知らせ

歯学部同窓会学術委員 野中 直子

2007年度第4回昭和大学歯学部同窓会ポストグラデュエートセミナーを開催いたします。同窓生以外の方の受講も可能ですので、是非ご参加ください。

- ◆ 日程:平成19年12月16日(日), 午後1時~4時
- ◆ 演題名: バイオサイエンス応用による生命科学的な歯科医療の開発
- ◆ 講師: 安孫子 宜光先生 (日本大学松戸歯学部 生化学・分子生物学講座教授)
- ◆ 会場: 昭和大学旗の台4号館5階500号室
- ◆ 受講料: 歯科医師 5,000円(当日6,000円), スタッフ 3,000円(当日4,000円)
- ◆ 申し込み方法: 12月5日(水)締め切り  
お問い合わせは、昭和大学歯学部同窓会事務局までお願いいたします。

TEL:03(3784)8077, FAX:03(3784)4029

## 診療統計(平成19年10月分)

医事課課長 長谷 孝義

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,517	712.2	688.0	717.9
入院患者	337	10.9	13.5	14.3

## 編集後記

口腔微生物学教室 深町はるか

今年も残すところ1ヶ月、クリスマスも近づき、各地で趣向をこらしたイルミネーションが輝いています。先日、富士吉田の校舎に行った際に、恒例のイルミネーションの準備が始まっておりました。点灯式前で見ることが出来なかったのですが、空気のきれいな富士吉田では、一層華やいでみえることでしょう。

最後になりましたが、ご指導いただきました広報委員長の五十嵐教授、また、ご多忙中の折、原稿をご執筆いただきました諸先生方、広報委員の先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。